

授業科目等の概要

| (ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------|------|-----------------|--|--------------|----------|---------|------|-----|------|----|----|----|--|----|--|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | | | | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | | | |
| ○ | | | アイテム演習 帽子 | 各部の名称、形と素材の種類、頭蓋型や採寸方法など帽子の一般知識を習得し、素材の特徴に合ったデザインの発想、トリミング（装飾）など、全体のバランスを考える。 フレード、夏物帽体、冬物帽体、コットン芯など帽子専門の材料の特徴を理解し、木型や専門道具を使用して制作。 基礎作図・基礎作図からの展開方法、仮縫い、縫製方法、生地や芯の扱い方を理解し布帛の帽子を制作。 | 1 ・ 通年 | 120 | 4 | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | | | アイテム演習 ジュエリー | ・ ジュエリー・アクセサリー商品の基礎知識の習得。 ・ ジュエリー制作における金属素材の扱いと基礎的技法の習得。 ・ ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ・ ジュエリー・アクセサリー商品取り扱い店舗（高級店舗、低価格店舗、繁盛店舗、注目店舗）における市場調査による商品研究。 | 1 ・ 通年 | 120 | 4 | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | | | アイテム演習 バッグ | バッグの基礎知識と製作技術および皮革素材の基礎技術の習得。作品を製作する中で、基礎的な製作技術を習得する。作品は①布と革の曲げまちバッグ、②基礎縫い制作。バックル、ナスカン付きショルダーベルト、カシメ、ハトメ、ホック付きブレスレット、ファスナー付きポーチ、ファスナー付きポケット部分縫い③縫い返しバッグ。デザイン、型出し、型紙、裁断、革すき、縫製、仕上げ、発表。作品製作以外に、バッグの機能・構造についての講義やショッピングリサーチレポート等。 | 1 ・ 通年 | 120 | 4 | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | | | アイテム演習 シューズ | ・ 基本デザイン（モカシン・パンプス）の制作及び設計技術の基礎を習得する。 ・ 用具、製靴用機械の取扱い方法を実習にて習得する ・ 履物の起源及び歴史、靴の構造、足の構造の概論を学ぶ | 1 ・ 通年 | 120 | 4 | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | | | 自由研究 I | ・ 各課題や個人の自由実習及び、補習を行う。 ・ ブランド研究（帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ等のブランド、企業の研究） ・ 各種コンテストの参加 ・ 美術館、博物館等の見学 | 1 ・ 通年 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |

授業科目等の概要

| (ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------|------|-------------|--|----|----------|---------|------|-----|------|----|----|----|----|---|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | | | | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | | |
| ○ | | | ハンディクラフト I | 企業との連携により各種のクラフトテクニックを、エンブロイダリーと布の加工に大別し、広く基礎的なテクニックを中心に習得していく。特に、バッグ・シューズ・帽子・アクセサリーなどのグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習する。併せて、学習したテクニックが使用されている実際の商品などの資料を集めて、ブックの形式で完成させることにより、テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる。 | | | 1・通年 | 60 | 2 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| ○ | | | 造形演習 | ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論の享受を教育目標とする。一般的な造形・デザインに対しての基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。 | | | 1・通年 | 60 | 2 | ○ | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 色彩論・演習 | 色彩の基礎的な知識を習得し、ファッションデザインにおける表現力、分析力を養う事を目標とする。テキストの内容に沿った講義や実習プリントの学習を通し、色彩の基本的な知識、配色の基礎などを理解し、ファッションの現場で活用できる能力を身につける。 | | | 1・通年 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | デッサン I | 静物デッサン・石膏デッサン等を通して物当然の原理・性質を理解し、描写力を養うことによって創造力の基底とする。 | | | 1・通年 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | ファッションデザイン画 | ファッションデザイン画は、人体のプロポーションと衣服のバランスを把握し、デザインの構造を明確に描く事が出来るよう基礎技法から幅広い画材研究まで習得し、各自のデザインワークにつなげていく事を目標とする。 | | | 1・通年 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | グラフィックワーク I | Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。 | | | 1・後期 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | ○ | | |

授業科目等の概要

| (ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------|------|--------------|--|------|----|---------|------|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 配当年次・学期 | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | 授業時数 | 単位数 | 講義 | | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 服飾造形 | 服飾造形としての一般知識、原型の理解、縫製の基礎を理解させる。 シャツ・ブラウスの衣服製作を通して、衣服構造を理解し、ファッショングッズとのコーディネートも関連させ指導する。 服飾造形の基礎、シャツ・ブラウスの基礎知識、縫製 | 1・前期 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 服装解剖学 | 人体の形態や構造を解剖学的に認識させ、人体を機能的で美的に表現できるファッショングッズ作りを目的とする。 全身のプロポーションを理解し、ファッショングッズ製作に生かすための計測法の説明を行い、機能面からデザイン発想まで結びつけられるように学習させる。 | 1・後期 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 素材論 | アパレルおよびファッショングッズに使用される素材について、繊維・糸・布・仕上げ加工などを主に学び、これらの知識を他教科やさらに将来の職業に生かせるよう基礎知識を充実させてゆくことを目的とする。 | 1・前期 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ファッションビジネス概論 | ファッションビジネスに必要とされるファッションビジネスの特性から、変遷、現状、産業構造、業態、職種、流通、マーケティング、マーチャンダイジング、計数、販売にいたる基礎知識を学ぶ。 | 1・後期 | 30 | 1 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | クリエイション演習 | デザインの基本を踏まえながら、学生の創造力・発想力を豊かにしていく。年間を通して平面～立体～空間と、考える領域を変化させて授業を展開していく。個人作業とグループワークを織り交ぜ、現代社会での重要性が増しているコミュニケーション能力も鍛えていく。 | 1・通年 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | キャリア開発I | 新入生の時点から就職を意識させ、次年度から始まる就職活動に向けた準備を整える。 将来の進路を決定する大事な学生生活をどのように過ごすかの意識付けとする。 | 1・通年 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | |

授業科目等の概要

| (ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------|------|--------|--|--------------|---------|------|-----|------|-------|----|-----|----|---|---------|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | | | | 講義 | 演習 | | | | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | | |
| ○ | | | 特別講義 I | 専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通じ、幅広い知識を得て視野を広げると同時に、個々の目的とする職能を確認し位置づける。 | 1 ・ 通年 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 校外研修 I | ・北竜湖コミュニケーションキャンプ 2泊3日の団体生活により、学生同士や教師との親睦を深める。 ・集団行動の中で相互理解を深め協調性を学ぶことで信頼関係を築く。 | 1 ・ 前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 学年合計 | | | | 19科目 | | | | | 1140 | 単位時間(| 38 | 単位) | | | |

授業科目等の概要

| (ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|------|------|-----------------|--|-----|----|---------|------|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 配当年次・学期 | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | 授業時間数 | 単位数 | 講義 | | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | バッグ デザイン I | バッグのマチの種類・構造を理解し、デザインの仕方、デザインに合わせた型出しの仕方を習得する。縫製方法と素材に合わせた縫い代の付け方、縫製テクニックを習得する。ミシン、革スキー機の操作技術を習得する。製作物は10点。横まち基本型、通しまち基本型、ソフト応用デザイン、スワローマチ基本型、スワローマチ応用型、バーア作品、外縫い横まち基本型、外縫い帯まち基本型、外縫い応用デザイン、小判底基本型 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグ パターンメーキング I | | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグ 制作実技 I A | | 90 | 3 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグ 制作実技 I B | | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグデザイン論 | 仕事としての商品企画（バッグデザイナーの仕事）について理解する。 バッグ業界の業種と職種、商品の流れ、企画の仕事内容、図面の描き方、展示会見学。 バッグのデザインの方法、考え方を習得し、商品企画力を身に付ける。商品デザイン演習（グループワーク、個人） | 30 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグ素材論 | | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグハンドワーク | 前期 革素材による手縫いの基本をマスターさせ、手縫いによる小物(財布、持ち手等)ができるほどのレベルにもっていく。 後期 手縫いの技法のいくつかを応用し、デザイン、パターン、製作ができるほどのレベルにもっていく | 90 | 3 | | | ○ | ○ | | | ○ | |

授業科目等の概要

| (ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|------|------|------------|---|----|----------|----------|------|-----|------|----|----|----|----|--|---------|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | | | | 講義 | 演習 | 実験・技実習・実 | | | | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | | |
| ○ | | | 自由研究Ⅱ | 各教科目を基に、さらに高度な技術と創造性を磨く為に、個人テーマにより研究する ◆各種コンテスト YKKファスニングアワード／台東デザインアワード／TLF革のデザイン展／文化服装学院ファッショングッズコンテスト 服飾工芸部門／その他関連コンテスト◆美術館、博物館等の見学◆個人テーマによる作品制作◆コラボレーション企画への参加 | | | 2 ・通年 | 60 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | ハンディクラフトⅡ | 企業との連携により、ハンディクラフトⅠで学習したクラフトテクニックの応用。エンブロイダリー・布の加工の他に、レースのテクニックも含め、より高度で広範囲なテクニックの習得を目指す。 バッグなどの皮革製品への応用を念頭に、よりクリエイティブな力を養うこと目標とする。 | | | 2 ・前期 | 30 | 1 | △ | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | デッサンⅡ | 静物デッサン・石膏デッサン等を通して物当然の原理・性質を理解し、描写力を養うことによって創造力の基底とする。 | | | 2 ・通年 | 60 | 2 | ○ | ○ | | ○ | | | |
| ○ | | | バッグデザイン画Ⅰ | バッグを立体物として捉えて描くため、はじめに立方体・円柱・楕円など基本的な立体の描き方を繰り返し練習。 段階を追ってバッグの構造を理解しながら複雑なデザインな形状まで描けるようになることを目標とする。 また、水彩、パステル、マーカーによる材質表現テクニックを習得する。 | | | 2 ・通年 | 60 | 2 | ○ | ○ | | ○ | | | |
| ○ | | | 造形デザインⅠ | ファッショングッズ専門課程の各分野において必要とされる立体造形に関する感覚を養成し、広く様々な造形経験を通じて、造形的なセンスと構成力を研鑽することが教育目標となる。一般的な造形・デザインから発展した様々な造形行為への理解を基調に、追体験と実験的制作を通して個人の主張する表現が遂行出来ることを目標とする。 | | | 2 ・通年 | 60 | 2 | ○ | ○ | | ○ | | | |
| ○ | | | グラフィックワークⅡ | グラフィックワークⅠの修了者を対象として、コンピューター操作の更なるスキルアップを図る。 Photoshopでは、連続柄の作成・デザイン画の着彩ができる事を目標とする。 Illustratorでは、ペンツールでオリジナルデザインが描けるようになることを目標とする。 | | | 2 ・通年 | 60 | 2 | ○ | ○ | | ○ | | | |

授業科目等の概要

| (ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|------|------|------------------------|--|----------|-----------|---------|------|----------|----|----|----|---------|--|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 配当年次・学期 | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | 企業等との連携 | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | 授業時数 | 単位数 | 講義 | | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | ファッショングッズ専門課程バッグデザイン | 1. ファッショングッズ専門課程バッグデザインの基本概念を学び、企画構想力を身につける。課題演習が主体のため、マーケティング理論は、特に重要な部分を抜粋する。 2. 最新のマーケティング事例とファッショングッズビジネス情報を解説して、業界の動向を把握し応良力を高める。 | 2 ・通年 | 60 | 2 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 西洋服装史 | 西洋服装史の通史的、概論的講義。古代から現代に至る西洋を中心とした歴史の流れと服装の推移、発展を理解させる。 人類が古代からファッショングッズ専門課程バッグデザインとどのように関わってきたかを、社会背景や美意識の変化を通して19世紀まではシルエットの変遷に重点を置き、20世紀から現代まではデザイナーの仕事に注目しながら現代ファッショングッズ専門課程バッグデザインの生成を理解する。 | 2 ・後期 | 30 | 1 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | キャリア開発Ⅱ (コミュニケーション) | ●将来を考えるテーマを通し、「(読み)・聴く・書く・話す力」を養う ・世の中に关心がもてるようになる ・人前で自分の意見を堂々と言えるようになる ・グループプレゼンテーションを通し、自分のことを表現したり、チームで協働することを経験する | 2 ・前期 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | キャリア開発Ⅱ (就職対策) | ●育成プロセスとして、単なるやり方を伝えるだけでなく、意識させ、繰り返してできるようになるまで行う | 2 ・後期 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 特別講義Ⅱ | 多方面にわたる講師の講義を通して、広い視野と高い専門性、豊かな人間性について学ぶ。 | 2 ・通年 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 校外研修Ⅱ | 企業訪問、工場見学、美術工芸品の見学や歴史的文化にふれることにより、感性を磨き豊かな創造性と深い知識を養う。 研修期間: 3泊4日 研修先: 近畿・山陽地方 (鞄・靴・帽子・他部材メーカー見学、皮革加工会社、アトリエ、美術館等見学) | 2 ・前期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | ○ | | インターンシップa | 企業研修を通して、実践の場から業界の仕事の内容を認識するとともに、学校教育では授業できない実務を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上をはかる。 ●研修先/バッグ、鞄業界の企業 ●期間/1週間~2週間 (受け入れ先企業により異なる) ●研修内容/実務作業補助(デザイン、製作、営業、生産管理など) 研修内容は受け入れ企業により組まれる。 | 2 ・後期 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 学年合計 | | | 20科目 | | | 1170単位時間(| | | 39単位) | | | | | |

授業科目等の概要

| (ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | 企業等との連携 |
|--------------------------------|------|------|----------------|--|----------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | バッグ デザインⅡ | 2年次までの基礎知識を基に、さらに高度なデザイン力、パターンメーキング力、縫製テクニックの習得を目指し、企業で即戦力として活躍できるスキルを身につけることを目標とする。作品テーマごとに基本作品(全員同じ形)を制作し、新しい知識・技術の習得を行い、それを活かしながら応用、発展させた作品制作を行う。また、素材についても様々な方法で加工を施しオリジナリティーの追及を目指していく。(基本作品5点、応用作品9~10点) | 3 ・通年 | 180 | 6 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグ パターンメーキングⅡ | 現役職人の外部講師による専門知識・技術の習得も行う。(財布、ブリーフケース) | 3 ・通年 | 180 | 6 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグ 制作実技ⅡA | | 3 ・前期 | 150 | 5 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグ 制作実技ⅡB | | 3 ・後期 | 150 | 5 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | バッグ マーチャンダイジング | 1. 実際のマーチャンダイザーの業務内容を通して、マーチャンダイジング計画の重要性と理解を深める。 2. 各自分でマップや計画書を作成し発表することで、実践力とプレゼンテーション力を養う。 | 3 ・通年 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | |
| ○ | | | バッグデザイン画Ⅱ | バッグの構造・機能・形状などバッグの美しさも考慮し、デザインの発想・色彩のバランス・素材などのアレンジのアイディアを探求し、デザインワークのうえで即戦力として使えるデザインの習得をする。 就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)作成、及び企画力あるデザイン展開を目指す。 | 3 ・前期 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 造形デザインⅡ | ・多種類の素材を通してデザインにおける造形や色彩感覚を養う ・発表会を通してプレゼンテーション能力を養う | 3 ・通年 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | コンピュータワーク | Word・Excelの操作方法を習得し、ビジネス文書の作成力を身につける。 Wordでは、社内文書・報告書・FAX送信表などの作成方法を習得する。Excelでは、表の作成・数式の扱い方・関数・グラフの作成方法を習得する。 | 3 ・後期 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | ○ | | |

授業科目等の概要

| (ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | 企業等との連携 |
|--------------------------------|------|------|---------------|---|-----|----|---------|------|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 配当年次・学期 | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | 授業時数 | 単位数 | 講義 | | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | ファブリックスカルプチャー | I. ファブリックスカルプチャーを習得する事によって、作品への制作手法や、発想を広げる事を目的とする。 II. 布地の表現手法、素材感を演習によって経験し、最終制作での発想、企画、立案、制作までの計画性と実現力を養う。 III. ポートフォリオ制作：授業での演習作品をポートフォリオにまとめ今後の制作活動に欠かせない、プレゼンテーションをする力を身につける。 | 30 | 1 | 3・前期 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 染色・プリント技法 | バッグデザイン制作の新たな発想の手がかりとなるよう、基本的な染色の知識やプリント技法・素材の加工法などを実習をとおして習得する。 | 30 | 1 | 3・前期 | ○ | ○ | ○ | | | | |
| ○ | | | 英会話 | 英語をツールにしてコミュニケーションをとれるように、イントネーションの大切さに留意させるとともに、相づちのうちかたなどもふくめた英語の総合的な運用力をつけることを目標とする。文法中心ではなく、体験的なクラス運営を試みてい。 | 60 | 2 | 3・通年 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 特別講義Ⅲ | ファッショングッズ全般に渡る、トレンド情報やプロダクトデザイン。また、グッズに関わるクリエーターや企業デザイナーの仕事。特殊材料やその活用方法などの、多方面にわたる講師による講義や演習を通して、専門科目のより一層の充実を図ることを目標とする。 | 60 | 2 | 3・通年 | ○ | △ | ○ | | | ○ | |
| | ○ | ○ | インターンシップb | 企業研修を通して、実践の場から業界の仕事を確認するとともに、学校教育では体験できない実務を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上とともに、就職に結びつける機会にする。 バッグの企業を中心に、1~2週間程度の期間、実務作業の補助(デザイン、製作、営業、生産管理など)や工場見学等、企業の受け入れ可能な内容を研修する。 | 30 | 1 | 3・後期 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |

授業科目等の概要

| (ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|------|------|---------|---|--------------|------------------|------|----|----------|----|----|----|---------|--|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | | | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 卒業研究・創作 | 卒業制作発表展示に向けて表現力、創作力を高め、また企画、運営する能力を養うことを目標とする。 3年間の集大成として、各自が研究テーマを設定し、4~5点のシリーズで作品をデザインし創作する。また、展示発表を通して企画、運営方法とチームワークの重要性を学び、帽子・ジュエリーデザイン科、シューズデザイン科と共に展示発表する。 | 3 ・ 後期 | 120 | 4 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 学年合計 | | | 14科目 | | | 1140単位時間(38単位) | | | | | | | | |
| 合計 | | | 53科目 | | | 3450単位時間(115単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|------------------------------------|--|----------|-------|
| 単位の取得、出席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること | | 1学年の学期区分 | 前期・後期 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。